
ポイズン弁当

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポイズン弁当

【Nコード】

N3145N

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

かわいい女子三人からお弁当をもらえるなんて信じられない。絶対何かある。

昼休みのことだった。

地味で持てない俺の元に、かわいい女子三人がやってきた。

「私たち、それぞれ室町君の為に弁当を作ったの。どれか一つ選んで食べて。」

俺の前に出されたお弁当は、どれもおいしそうだ。

そこに俺の友達の木村田がやってきた。

そして俺に耳打ちした。

「その三つのうち、どれか一つには毒が入っている。」

かわいい女子が俺を相手にするなんておかしいと思った。

これは罰ゲームだ。

もしかしたら木村田もグルかも知れない。

よりによって俺は食べ物売店で買えるだけのお金を持っていない。空腹のままにいるべきか、毒かもしれない弁当で満腹になるか。

さあ、どっちにする。

「室町くん、私のお弁当食べたくないんだ。」

不機嫌な様子で言葉の爆弾を投げつけてくるクールな委員長塚緑。

「ごめんね、室町君。ゆいの作ったお弁当なんて食べたくないよね。」

目に涙をいっぱいためて、今にも雨を降らせそうな彼女は不思議系天然妹キヤラ羽賀ゆい。

「室町君の為に作ったんだよ？」

小首をかしげて見つめてくるのは、クラスのアイドル赤井チカ。待てよ、もしかしたら木村田は嘘をついているのかもしれない。

この状況に嫉妬して、嘘で俺を苦しめているんじゃないか。

よく考えてみたら、クラスメイトに毒入り弁当を食べさせるなんて犯罪だ。

人気のある女子三人がそんなことをするとは思えない。

さて、そうと分かれば問題は誰の弁当を選ぶかだ。

女子の手作り弁当を食べられるなんて一生に一度あるかないかのチャンスだし、俺はごちゃごちゃ考えたせいでとても空腹だ。

誰か一人の弁当を選んだら、残り二人に恨まれるかもしれない。今なら弁当三つくらいいいけそうだ。

「三つとももらえる、かな？」

「はあ、仕方ないわね。はい。」と塚緑。

「食べてくれるなら本望です。」と羽賀ゆい。

「よかった。食べてもらえるんだ。」と赤井チカ。

俺は三人から弁当を受け取り、あっという間に食べきった。それを見た女子三人はにたつと笑った。

木村田は重い口を開いた。

「全部毒入りだったんだ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3145n/>

ポイズン弁当

2010年10月9日13時39分発行